

| | |
|------|----------------------------------|
| タイトル | アトラ・ハシース叙事詩(Atra-hasis)(3)(退職記念) |
| 著者 | 桑原, 俊一 |
| 引用 | 北海学園大学人文論集, 45: 113-141 |
| 発行日 | 2010-03-31 |

アトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasis) (3)

桑原俊一

キーワード：古代メソポタミアの神話，アトラ・ハシース叙事詩，人間の創造神話，洪水神話

本稿はアトラ・ハシース叙事詩の翻字，翻訳とコメント等の継続論考である。従って使用した主たるテキスト記号やその他の記号はアトラ・ハシース叙事詩 (Atra-hasis) (1)を踏襲する。

第2部はアトラ・ハシース叙事詩にお決まりのテーマからはじまる。神々の時間ではそう長期間 (1200年)¹ではなかったが，国土は広大になり，人口は膨大になった。そのため神々の世界にも人々の騒々しさが悩みの種と

1 この叙事詩では1200年が3度繰り返され全体で大洪水前に3600年が経過することになる。60進法のメソポタミアでは3600年は無限大の時間を意味するが，シュメールの王名表によれば大洪水以前の王たちの治世は数万年単位で表記される。代表的な王名表に「エリドゥ王名表」がある。それによれば王権が天より下りアルリム (Alulim) は28800年統治したとあり，3代目の王エンメンルアナ (En-men-lu-ana) は最も長く43200年を治めたとある。もっとも洪水以降初期王朝I・II時代になると1200年から300年と極端に統治年代は短縮される。大洪水以前と以降で極端な格差を設けるこの種の文学手法は聖書文学にも見られる。つまり原始史におけるアダムからノアの寿命はアブラハム以降の族長たちのそれと比較すると極端に短い。T. Jacobsen, *The Sumerian King List* Assyriological Studies 11 (1939); *The Eridu Genesis*. in *I Studied Inscriptions Before the Flood*, ed. R. S. Hess and D. T. Tsumura. Winona Lake IN, 1994, 129-42.; I. Kikawada, "Literary Convention of the primaevial History," *Annual of the Japanese Biblical Institute* 1, 1975, 3-21.

なり、睡眠がとれないのだという。エンリルは人々を絶滅しようと決断する。

そこで嵐の神アダドに命じて雨を降らすことを禁じ、人間の食料を断つようにする。しかし知恵と魔術の神エンキ／エアはすべてを予測することの出来る神であった。アトラ・ハシースはエンキ／エアの助言を受けエンリルの送る疫病に対し疫病神ナムタルを懐柔し人類を守ることになる(第1部)。次の1200年後エンキ／エアは日照りと飢饉に介入し雷神アダドを取りこみ人類を絶滅から守る。人間はアダドの神殿を建て、彼に献納することで雨の恵みを得る。

なおテキストについては B=Ni 2552+2560+2564; B=MLC1889; QSm292 を本稿文末に添付した。

第2部

第1欄

テキストは B 1-20, D 2-23, Q 1-13 であるが、其々欠字・欠損の少ないテキストを主要にし補完可能な場合、対応するテキストを参照した。

B 1 ul ullikma 600.600 šanātum²

1200年はいまだ経過していなかった。

B 2 mātum irtapišu nišu imtīda

国土は広大になり、人々の数は増大した。

B 3 mātum kīma li išappu

国土は雄牛のように吠えて、

B 4 [ina] huburišina ilū ittādar

彼らの騒々しさ [で] 神々は(睡眠)を乱された。

B 5 [^dEnli]l ištēm rigimšin

[エンリ]ルは彼らの騒ぎを聞いた。

2 シュメール語 MU.HI. A が用いられる。

- B 6 izzakar ana ilī rabûtim
彼は偉大なる神々に言った。
- B 7 iktabitā rigim awīluti
「人間の騒ぎはあまりにも大きくなった。
- B 8 ina huburišina uzamma šitta
彼らの騒々しさでわたしは眠りを妨げられている。
- B 9 [pu]rsā ana nišī teīta
人間どもの食料を断て。
- B 10 ana bubūtišina liwišī šammu
彼らの飢えに備える命の草木を少なくしよう。
- B 11 zunišu ⁴Adad³ lišaqqil
アダド⁴に雨を留めおかせよう。

3 文字記号はシュメール語 ⁴IŠKUR と綴られる。

4 Iškur はシュメール人には嵐の神として知られていた。アッカド語は Adad (Hadad, Addu, Adda としても出てくる) である。西セム語ではウェルやメルと呼ばれている。古代オリエントでは広く崇拜された雨・雷を司る神であった。ときにフリ語の Tešup やカッサイト語の Briaš の名を持つ神となる。An を父とすることが多いが、古い伝承によれば Enlil を父とする。2 柱の下位の神 Šullat と Haniš を従える。イシュクルは雷鳴を伴い洪水を惹き起す神でもあったが、アダドは雨をもたらし、その結果地上での草木の成長を促す神として好意的に受け入れられていた。See, A. R. Green, *The Storm-God in the Ancient Near East*, Eisenbrauns, Winona Lake, 2003, 48-72.

嵐の象徴は稲妻で、イシュクルの獣は獅子龍か。アダドの獣は獅子龍ないし雄牛であった。次頁脚注図：左はイシュクルかアダドで、獅子龍の上に立っている (古バビロニア時代の円筒印章)。右は雄牛の上に立つアダド (新アッシリアの碑文)。See, J. Black and A. Green, *Gods, Demons and Symbols*

- B 12 hipiš⁵ aja illika
湧き上がらせるな、
- B 13 [mīlu] ina naqbi
深みから [洪水] を。
- B 14 [l]illik šaru
風を吹かせよう。
- B 15 [q]aqqara lierri
大地を裸にさせよう⁶。
- B 16 [er]pētum lihtannibā
雲を厚くせよ、
- D 17 tiku aji ttuk
けれども雨粒を落とさせるな。
- D 18 [li]ššur eqlū⁷ išpikišu
田畑にはその生産を断たせよう。
- D 19 liteddili irtaša ^dNisaba
ニサバ⁸ には彼女の胸に鍵をかけさせよう。

of Ancient Mesopotamia, University of Texas Press, 1997, 110-111.



- 5 Lambert/Millard は [ša-ap-li-iš] と読む。その意味は「下では」。
- 6 植生のない不毛な大地の描写。
- 7 テキストはシュメール語 A.ŠĀ と綴られる。
- 8 起源的には穀物の女神。初期王朝時代より確認され、文字、計算、書記術

D 20 aji ibšišinaši ri[štum]
彼らには悦びなぞなかろう。

D 21 lu quttur ma[...]
[.....] 落胆するように。

D 22 aji [.....]
[.....] ないように。

テキストはここから第1欄の終わりまでおよそ34行にわたって欠損する。

第2欄

最初のおよそ12行は欠損が甚だしい。

Q 2' [.....] izib
[.....] 去った

Q 3' [.....] ina? alaki
[.....] 行くために

Q 4' [.....] bēlišu

の女神でもある。グデアの碑文では書記術の守護神として言及される。前2千年紀後半から次第にナブーが書記術の守護神に取って代わる。AnとUrašの娘でNinsunの妹。女神Sudの母で夫は倉庫の神Hayaである。See, *RLA* 9 Band, 575-579; J. Black and A. Green, *Gods, Demons and Symbols of Ancient Mesopotamia*, 110-111.



図像は長く垂れさがる髪をもち、ティアラは三日月と麦の穂によって特徴づけられている。なおティアラを構成する雄牛の角はメソポタミアに固有の神々の象徴である。肩にはケシのさやがあしらわれ、右手にはデーツの房をにぎっている。石器で作成された飲用容器の断片。初期王朝時代の作品。

- [.....] 彼の主
 Q 5' [.....] ana halaqi
 [.....] 消える
 Q 6' [.....] šiprašina
 [.....] 彼らの働き
 Q 7' [.....] x-ri-im-ma
 [.....] [...]
 Q 8' [.....a]ltasi
 [.....] わたしは叫んだ
 Q 9' [.....] x-u-ma
 [.....] [...]
 Q 10' [.....b]a?-šu
 [.....] [...]
 Q 11' [.....p]uhra
 [.....] 集会
 Q 12' [.....] māmītu
 [.....] 誓い
 Q 13' [šībūti simā]nē
 [長老たちと古参の者たち] [.....]⁹
 Q 14' [ura? ane' qirib bītu]m milki
 家の [中で議会.....]
 Q 15' [qibāma lissū nāgrū]

9 Dally 訳 : 13' 「長老たちと古参の者たち」を招集し、
 14' おまえたちの家で反乱をはじめ、
 15' 伝令たちに.....布告させよう。」

なお、この行に続くテキストは第1の書板 (Avii 41-51) 374行-384行とほぼ並行する。

[命ぜよ、伝令たちが布告するように。]

- Q 16' [rigma lišep̄p̄û] in māti
 Dii 8 ri- [……………]¹⁰
 [彼らに] 国土に [騒ぎをおこさせよう。]
 Dii 9 e tapl[ah elikun]
 [おまえたちの神(々)を] 畏れるな。
 Dii 10 e tusal[lia išta]rkunu
 おまえたちの [女神に] 祈るな。
 Dii 11 ^dAdad ši[a bābšu]
 アダドの [扉] を探し出せ。
 Dii 12 bilā epita [ana qudmišu]¹¹
 [彼の前に] 焼いた (パン) を持ってきたさい。
 Dii 13 lillikšu [maṣhatum nīqû]¹²
 [焼いた粉の供物は] 彼に届こう。
 Dii 14 libāšima [ina katrê]
 彼は [その贈物によって] 面目を失おう。
 Dii 15 lišaqqil qassu
 彼は彼の手¹³ を拭き取ろう。
 Dii 16 ina šērēti ibbara lišaznin
 朝まだき彼は霧を降らせよう。
 Dii 17 lištarrīq ina mušimma
 夜には彼は盗みだし、
 Dii 18 lišaznin nalša¹⁴

10 QテキストにDテキストの第2欄が続く。

11 テキスト Dii 12-19 は Dii 26-33 に並行する描写である。

12 この行からテキスト Bii 67 行以下が対応する。

13 「病」を意味する。第1の書板 384 行の脚注を参照。

14 Bii 72 行による復元。li-ša-az-ni-in na-aš-[ša]なお nalšu/naššu は音韻推

露を降らせよう。

- Dii 19 eqlū kīma šarrāqītu šua lišši
田畑は盗人のように穀物をもたらそう¹⁵。」
- Dii 20 ša ^dAdad ina āli ibnū bīssu
彼らはアダドのために都市に神殿を建立した。
- Dii 21 iqbūnu issū nāgīru
彼らは命じた、伝令たちに布告を¹⁶。
- Dii 22 rigma ušēppū ina mātīm
彼らは国土に騒ぎを起こした。
- Dii 23 ul iplahū ilišunu
彼らは彼らの神(々)を敬わず、
- Dii 24 [ul] usellū ištaršun¹⁷
彼らは彼らの女神に祈らなかった。
- Dii 25 [^dAdad iš]iū bābšu
彼らは [アダド] の扉を探し出した。
- Dii 26 [ublū] epitā ana qudmišu
彼の前に焼いた(パン)を [持ってきた]。
- Dii 27 [ili]kšu maṣhatum nīqu
焼いた粉の供物は彼に届いた。
- Dii 28 [ibā] šīma ina katrê
彼はその贈物によって面目を失った。

移による相違である。

Dii 23 行までは Bii による復元である。

15 エンリルの言葉(B 7行より)はここまで続く。

16 24-29行の描写は第1の書板379-384行に並行する。又欠字の復元は Dii 8-19行を参照。

17 この行からテキストは Dii による。

- Dii 29 [uš]aqqqil qassu
彼は彼の手を拭き取った。
- Dii 30 [ina šere]ti ibbara lišaznin
朝まだき彼は霧を降らせた。
- Dii 31 ištariq ina mušimma
夜に彼は盗みだし、
- Dii 32 [ušazni]n nalša
露を降らせた。
- Dii 33 [eqlū kīma šarr]aquitu šua išši
[田畑は] 盗 [人のように] 穀物をもたらした。
- Dii 34 [……………]it]ēzibšīnati
[飢饉は?] は彼らから去った。
- Dii 35 [……………] -šina ittūrū
[神々?は] 彼らの [(普段の) 供物に] 戻った。

第3欄

テキストの保存状態は良くない。従ってテキストの翻字に困難が伴う。

- Diii 2 [……………] ilišu
[…………] 彼の神
- Diii 3 [ina ……………x]-li šēpšu iškun
[…………] 彼は足を据えた。
- Diii 4 [ū]mišamma ibtanakki
日毎彼は涙した。
- Diii 5 [m]uššakki izabbil
- Diii 6 [in]a šērēti
朝まだき (6行) 彼は香料をもって来た (5行)。
- Diii 7 […] x-a ili tamīma
彼は神々の [……] にかけて誓い、
- Diii 8 [uzna] išakkana ina šunāti

彼は夢に [注意] を払う¹⁸。

- Diii 9 [x···x···a] ^eEnki tamîma
彼はエンキの [·····] かけて誓い、
- Diii 10 uzna išakkana ina šunāti
彼は夢に注意を払う。
- Diii 11 [·····] bit ilišu
彼の神(々)の神殿 [·····]
- Diii 12 [·····u]ššab ibtakki
彼は? [·····] 坐して、泣いた。
- Diii 13 [·········] x x id-di¹⁹
[·········] 投げ、
- Diii 14 [········ušš]ab ibtakki
彼は? [·····] 坐して、泣いた。
- Diii 15 i-[·········] x šahurrat
彼は [··········] 静寂で、
- Diii 16 [ina········x] ašu iqtê
[··········] 終えた。
- Diii 17 ši- [x ·········] x âmru
[··········] 見られ、
- Diii 18 izzak[ar ········ana···] nāri
川の [··········] 言った。
- Diii 19 lilq[i········lib]ili nāru
川に [取] らせて、運ばせよう。
- Diii 20 li-il-l[i ··········]-ul-ti
[···········] させよう。
- Diii 21 ana ma-a[h? ··········]-ja

18 原意は「[耳] を据える。」

19 nadû か。

- […………] にわたしの [……]。
- Diii 22 limu[r ……………] x
 彼が […………] を見るように。
- Diii 23 li-i[b ……………]
 彼が […………] ように。
- Diii 24 anāku ina mūš[i ……………]
 夜にわたしは […………]。
- Diii 25 ištūma i[š ……………]
 彼が […………] の後,
- Diii 26 pūtiš nāri […………]
 河の向かいに […………]
- Diii 27 ina kibri […………]
 川岸に […………]
- Diii 28 ana apsî u- […………]
 アプスーに […………]
- Diii 29 išmema ^dEnk[i ……awassu]
 エンキは [彼のことば] を聞き
- Diii 30 ana lahmi u-[…………]
 ラハム-怪物²⁰ ともに [……]

20 シュメール語ラハマ (Lahama) としても出てくる。元来エンキ／エアに
 与する守護と慈悲を属性とする被造物で、後にマルドゥクと関係づけられる。
 新アッシリア時代には (4本か6本) の長い巻き毛をもち鬚鬚をたくわえた
 被造物として登場する。バビロニアの創造神話、エヌマ・エリシュの冒頭
 においてラハム (Lahmu) を配偶神としアプスー (Apsû) とティアマト
 (Tiāmat) を両親とする。

See, J. Black and A. Green, *Gods, Demons and Symbols of Ancient Mesopotamia*, 185, Fig.153. 裸体のラハム神が水の流れ出るつぼを抱えてい

Diii 31 awīlum ša [……………]
[……] 男 [……………]

Diii 32 anūma lid-[……………]
これに [……………] させよう。

Diii 33 alkāma tērt[a……………]
行け、命令 [……………]

Diii 34 ša-la x [……………]

35 行以下欠損。

Div 1 elēnum mi- [……………]
上では、[……………]²¹

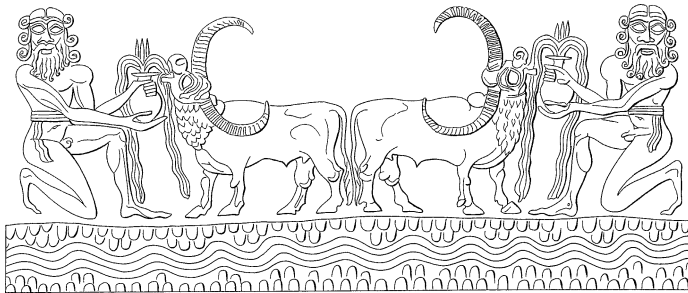
Div 2 šapliš ul il[lika]
下では、湧き上がらなかった。

Div 3 milu ina agb[i]
地界²²からの洪水が。

Div 4 ul ulda eršitum remša
大地の子宮は産むこともなく、

Div 5 šammu ul ūšia

る。そして水牛がその水を飲んでいる。アッカド時代に刻印された円筒印章。



21 Dally 訳によれると [雨は運河に満ちていなかった。?]

22 地下界の水、湧水や河川の源泉を意味する。洪水も地界から湧出すると考えられていた。深淵や海の水のことではない。

草木は現れ出なかった。

Div 6 nišū ul amrā[ma]

人々は見られなかった。

Div 7 ṣalmutum ipšu [ugāru]

黒い [耕地] は白くなった。

Div 8 ṣeru park malī id[rāna]

広大な草原は塩で満ちた²³。

Div 9 išīta šattam ikulā la[rda]²⁴

一年間彼らはナルドゥ草を食べた。

Div 10 šanīta šattam unakkima nakkamta

二年目には彼らは倉庫を空にした²⁵。

Div 11 šaluštum šattam illi[kamma]

三年目がやって来た。

Div 12 ina bubutim zīmšina [ittakrū]

空腹によって彼らの容貌は[変わった。]

Div 13 kīma buqli kat[mū pānušin]

23 耕地が塩化により結晶して白くなる様。メソポタミア農耕にとって最も厄介で、困難な問題はいかに塩害に対処するかであった。とりわけ南部の灌漑農耕にとって死活問題であり、土壤の塩化現象をいかに防ぐかにかかっていた。メソポタミアは気候風土に決して恵まれた地域ではなく、摂氏 30 度を超す気温に加え、乾燥した条件下で麦類の生産を飛躍的に増大させるためには、土壤の塩化をいかに克服するかにかかっていた。しかし灌漑の管理を徹底しても自然条件はしばしば人々を翻弄した。十分な運河や水路の管理を怠ったり、水量の不足により土壤の洗浄が行われない場合もしばしばあった。旱魃による飢饉はメソポタミアをはじめエジプトや旧約聖書にもしばしば叙述されている。

24 塩害にも耐える植物、したがってこの草は塩分を蓄えていて、人間の食料としては相応しくない。Cf. CAD L 103a.

25 See, W. L. Moran, 'Note brève, Atrahasis 78, iv, 9ff.' *Revue d'assyriologie*, 79 (1985), 90.

[彼らの顔] は麦芽 (モルト) のように²⁶ 蔽われた。

Div 14 ina šitkuti napiš[ti balṭā]

[彼らは生きていた], 命を苦しめながら。

Div 15 arqutum āmru pān[ušin]

[彼らの] 顔は蒼ざめて見えた。

Div 16 qaddiš illakā i[na sūqi]

彼らは [街を] (背を) 丸めて歩いた。

Div 17 rapšūtum būdāšina [issiqā]

彼らの広い肩は [狭くなり,]

Div 18 arkutum mazzazušina [ikrūni]

彼らの長い脚は [短くなった²⁷。]

Div 19 šipru [ilqū ……]

彼らは [アトラ・ハシースから神々に対する²⁸] 指針を得た。

Div 20 qudmiš ta x [……]

[偉大なる神々の集会の] 前で,

Div 21 izzazzūma [……]

彼らは立ち, [……した。]

Div 22 terēt [……]

[アトラ・ハシースの] 指示を [彼らは繰り返した。]

Div 23 qudmiš [……]

[……] の前

以下は欠損が著しく断片的である。

第5欄

テキストの1行目から12行にわたって断片的である。

26 Dally 訳: かきぶた?。

27 Dally 訳: 彼らは直立して頭を垂れた。

28 19行と22行はDallyによる復元訳。

- Dv 13 libbati mal[i ša ʹIḡigi]
 彼 (エンリル) は [イギギに対する] 怒りで満ちていた。
- Dv 14 rabūtummi ʹAn[unna kalūni]
 「[われわれ全て] 偉大なるアヌンナキは²⁹,
- Dv 15 ublā pīnī ištī[niš ūrtam]
 [共に計画に] 賛同した。
- Dv 16 iššur Anu ʹ[Adad elēnu]
 アヌと [アダドは上方] を守った。
- Dv 17 anāku aššur er[šetam šaplitam]
 わたしは [下方の地] を守った。
- Dv 18 ašar ʹEnki [illikūma]
 エンキが [行く] ところ,
- Dv 19 iptur ull[a andura iškun]
 彼は軛を解き, [自由を確立した。]
- Dv 20 umaš[šer ana niši mišertam]
 彼は [人々のために (海の) 産物を] 自由にさせた³⁰。
- Dv 21 iškun x [x-tam ina ašqulālu šamši]
 彼は [均衡 (?) を維持するための操作を (?)] を訓練させた。
- Dv 22 ʹEnlil piašu [īpušama]
 エンリルは口を開いて,
- Dv 23 ana sukkalli ʹNusku izzakar
 宰相ヌスクに言った。
- Dv 24 se? na x [ma-r]i li[bbikūnim]
 「彼らに [わたしのところに……を持って] こさせよう。

29 この欄 14 行から 21 行は第 6 欄 23 行から 30 行と並行する。

30 ašqulālu について Dally の用語集に収録されている。この文脈では武器に関係するのだろうか。

- Dv 25 li[šērb]ūnim³¹ ana mahr[ia]
彼らに [わたしを] 送らせましょう。」
- Dv 26 se? na mari ibbikūn[im]
彼らは [わたしのところに] [……] を持ってきた。
- Dv 27 izzakaršunuši qurādu ^d[Enlil]
戦士 [エンリル] は彼らに言った。
- Dv 28 rabtūmmi ^dAnunna k[alūni]
「[われわれ全て] 偉大なるアヌナキは、
- Dv 29 ubla pīnī ištīniš ūr[tam]
共に計画に] 賛同した。
- Dv 30 iṣṣur Anu ^dAdad el[ēnu]
アヌとアダドは上 [方] を守った。
- Dv 31 anāku aṣṣur eršetam ša[plitam]
わたしは下 [方] の地を守った。
- Dv 32 ašar attā ta[lilikuma]
お前が行くところ、

以下3行はテキスト Dv 19行から21行からの復元である³²。

- 1' [tapṭur ulla andurāra taškun]
[お前は軛を解き、自由を確立した。]
- 2' [tumaššer ana niši mišertam]
[お前は人々のために (海の) 産物を自由にさせた。]
- 3' [taškun x x tam ina ašqulālu šamši]
[お前は均衡 (?) を維持するための操作を (?) を訓練させた。]

31 Lambert/Millard は -ni と読むが -nim であろう。

32 Lambert/Millard に従った。

第6欄

1行から9行までは、特に左半分部分はほぼ欠損していて翻字さえ困難である。

Dvi 10 [usazni]n ^dAdad zunnišu

アダドは彼の雨を [降らせた。]

Dvi 11 [……………] imlu ugāra

[……………] 草原を満たした。

Dvi 12 [u erp]etum ukalala x x x

[そして雲が? ……] 蔽った。

Dvi 13 [la taša]kalanim tenišešu

彼の民たちを養 [うな。]

Dvi 14 [u la t]eppiranim nuhuš nīši ^dNisaba

そしてニサバの民の豊饒を、穀物の配給を [するな。]

Dvi 15 [ilu]ma itašuš ašābam

[神?] は座っていると心配になり、

Dvi 16 [in]a puhri ša ili šihtum³³ ikušū

神々の集会において苦悩が彼を蝕んだ。

Dvi 17 [^dEnki] itašuš ašābam

[エンキ] は座っていると心配になり、

Dvi 18 [ina pu]hri ša ili šihtum ikušū

神々の集 [会において] 苦悩が彼を蝕んだ。

Dvi 19 […………] teqita³⁴ ina qātišu

[…………] 手に軟膏を

以下2行は欠字が多く、意味不明。

Dvi 22 […………] ^dEnki ^dEnlil

33 Lambert/Millard 訳は「笑い」と解するが、「悲しみ、苦悩」と取る。

34 Lambert/Millard 訳は「中傷」と解する。tēqītu 「軟膏」であろうか。

- [.....] エンキとエンリル
- Dvi 23 [rabûtum ^dAnunn]a kalûni
「[われわれ全て] 偉大なるアヌナキは、
- Dvi 24 [ubla] pîni išti[niš urtam]
共に [計画に賛同した。]
- Dvi 25 [iṣṣ]ur Anu ^dAdad elēnu
アヌとアダドは上方 [を守った。]
- Dvi 26 [an]āku aṣṣur er[ṣetam šaplītam]
わたしは下方の地を守った。
- Dvi 27 [aša]r attā tallikuma
あなたが行くと [ころ、]
- Dvi 28 [ta]pṭur ulla andurāra taškun]
[あなた] は軛を解き、自由を確立した。
- Dvi 29 [tum]aššer ana niši mišertam]
[あなた] は人々のために (海の) 産物を自由にさせた。
- Dvi 30 [taškun] x x tam ina ašqulālu šamši
[あなた] は [均衡 (?) を維持するための操作を (?)] を
[訓練させた。]
- Dvi 31 [.....]
[.....]
- Dvi 32 [.....q]urādu ^dEnlil
戦士エンリルは [.....]

第7欄

最初の30行は復元不可能。

- Dvii 31 [šupši]kkakunu [awīlam ēmid]
[あなた方] はあなた方の [苦] 役を [人間に負わせた。]
- Dvii 32 [tašt]a'īṭā rigm[a ana awīlūti]
[あなた方] は [人類に] 騒音を向 [けた。]

- Dvii 33 [ilam t]aṭbuhā qad[u ṭēmišu]³⁵
 あなた方は一柱の神もとも彼の理解力を屠った。
- Dvii 34 [tatt]ašbamā ta-ar x [……]
 あなた方は坐して [……]
- Dvii 35 […………] ubbal [……]
 [……] 持ってくる [……]
- Dvii 36 [ubl]ama libbakunu ūrt [a……]
 あなた方は(悪い)計画を決定した。
- Dvii 37 š[i] litūr ana up-[……]
 それを [……] に転換させよう。
- この行からテキスト B : 37-54 行がテキスト D の欠字・欠損の補完を可能にしている。
- Dvii 38 i n[ut]ammni mas-x […]
- Dvii 39 ^dEn[ki] nišš[īka]
 思慮深いエンキに (39)
 [……] 誓いを結ばせよう (38)。
- Dvii 40 ^dEnki [piaš]u īpušamma
 エンキは口を開いて、
- Dvii 41 izzakar ana il[ī] ahhišu]
 [彼の兄弟の神]々に言った。
- Dvii 42 ana minim [tu]tamman[i …]
 どうしてあなた方はわたしに [……] 誓いを結ばせ、
- Dvii 43 ubbal qāti ana niš[ījama]
 わたしはわたしの民に対して手を上げなければならないので
 すか³⁶。
- Bvii 8 abubu ša taqab[aninni]

35 第1の書板 239行を参照せよ。

36 暴力の行使を意味する。

あなた方がわたしにお命じになる洪水とは、

- Bvii 9 mannu šū anāku ulīde
それはなんでしょうか。わたしには分かりません。
- Bvii 10 anākuma ullada [abuba]
わたしが [洪水] を産むことができますでしょうか。
- Bvii 11 šipīršu ibbasi it[ti ʹEnlil]
それは [エンリル] のような仕事です。
- Bvii 12 libtēru šū [……………]
彼に選ばせよう [……………]。
- Bvii 13 ʹŠullat u ʹ[Haniš]
シューラットと [ハニシュ³⁷] を
- Bvii 14 lilliku ina [maharu]
[先に] 行かせよう。
- Bvii 15 tarkulli ʹEr[rakal linasih]
エツラ [カル³⁸ に] 繫留柱を [引き抜かせよう。]
- Dvii 52 lil[lik ʹNinurta]
ニヌルタを行かせ、
- Dvii 53 lir[di mihra]
[堰を溢れ] させよう。

以下2行ないし3行ほどの欠文の後7欄は終える。

第8欄

テキストは B 33-37 と D 31-37 による。

- Dviii 32 puhra [……………]
議会 [……………]
- Dvii 33 e tašmia ana ši-ku-[…]

37 アダドに仕える宰相。注3を参照せよ。

38 Erragal, Erakal: Nergal のことか。See, Dally, 321.

[...] に耳を傾けるな。

Dviii 34 ilū iqbû game[rtam]

神々ははっ [きりと] 命じた。

Dviii 35 šipra lemna ana niši ipruš ^dE[nlil]

エ [ンリル] は民に悪行をなした。」

残り2行は第3の書板のキャチラインである。

Dviii 36 ¹Atramhasīs piaš ipšama

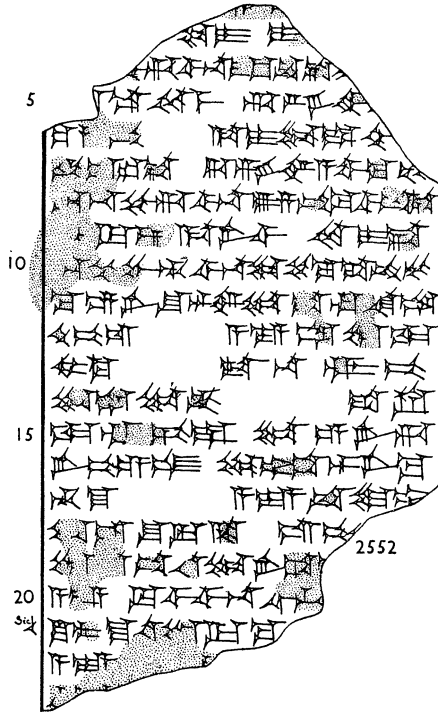
アトラ・ハシースは口を開いて、

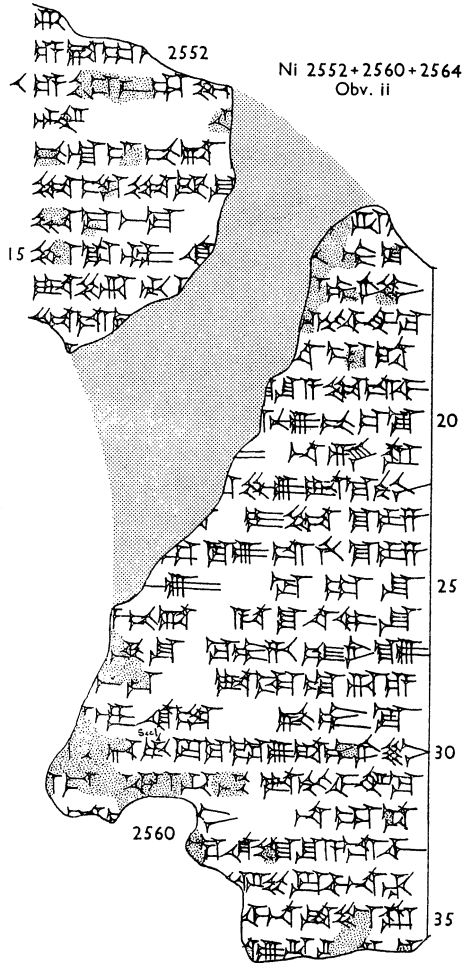
Dviii 37 izzakar ana bēlišu

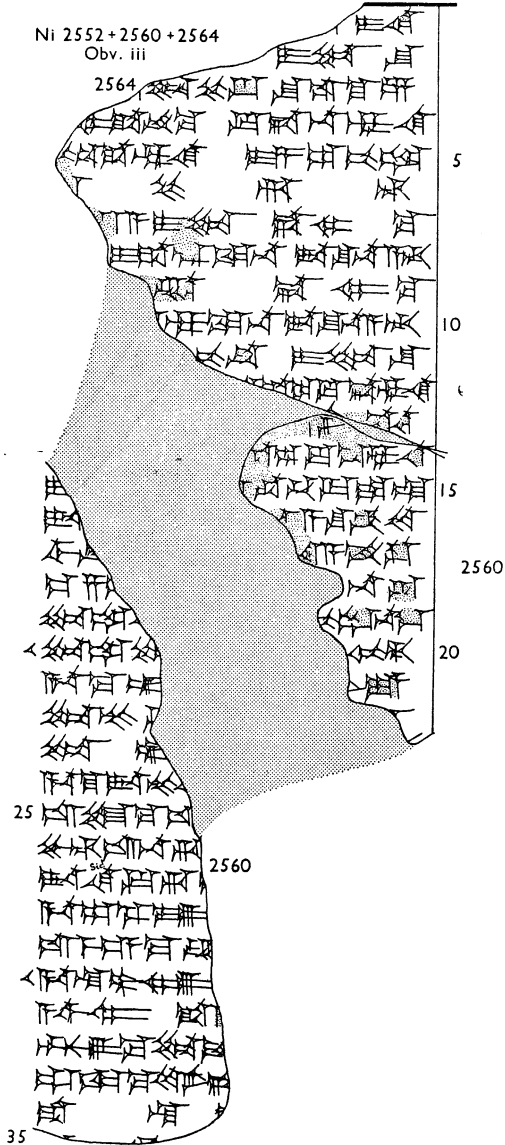
彼の主人に言った。

D

Ni 2552+2560+2564
Obv. i









Ni 2552 + 2560 + 2564
 Obv. iv

2564

5

Obv. i
 (Perhaps line 7 of column)

15

20

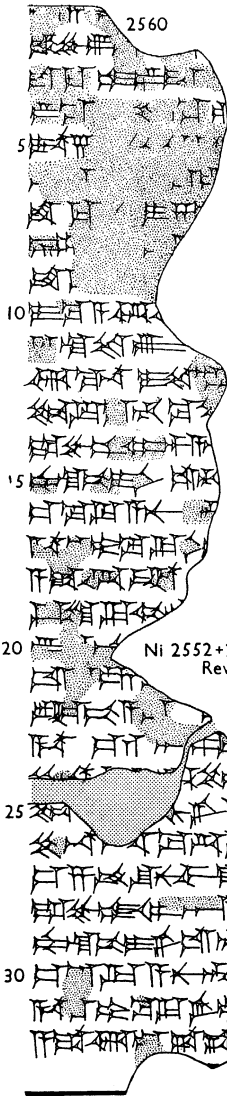
2560

(I 239)

(I 245?)

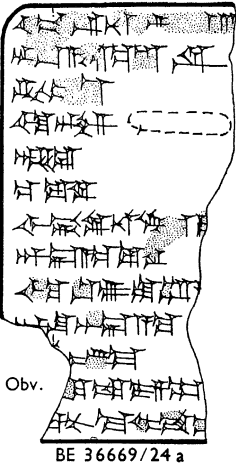
BE 39099

(A few other illegible traces remain, and those copied are given with reserve.)

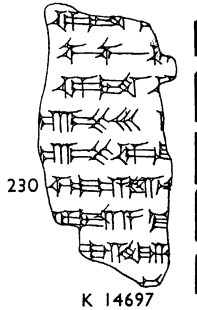


2560

Ni 2552+2560+2564
Rev. v



BE 36669/24 a

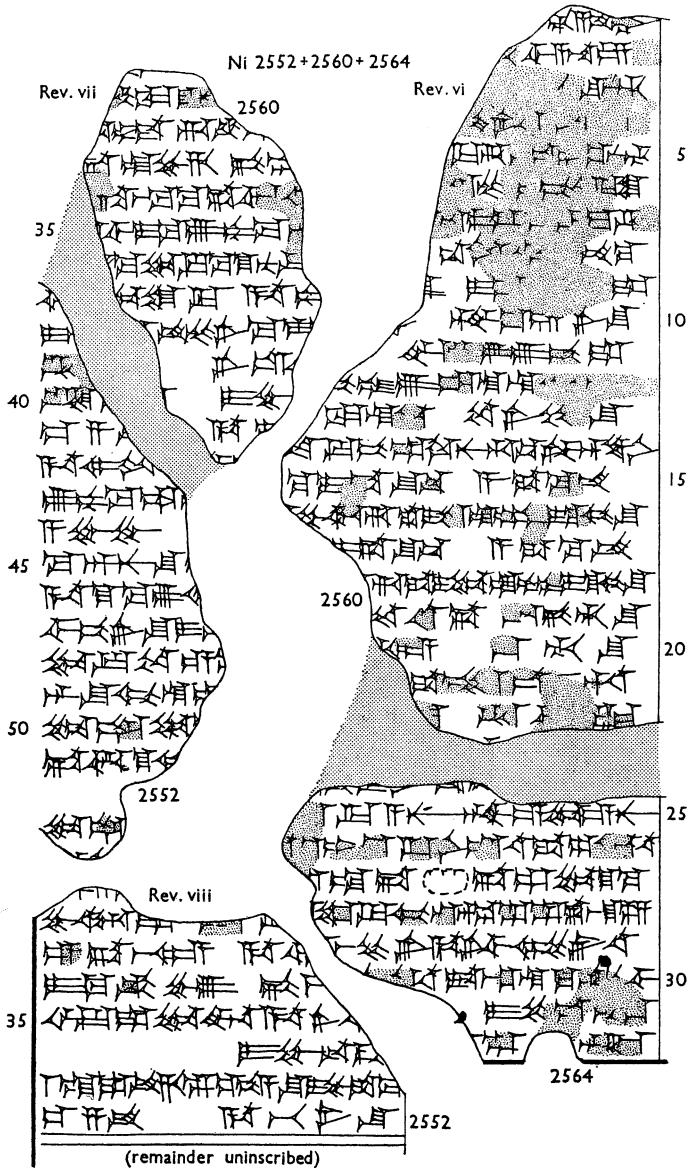


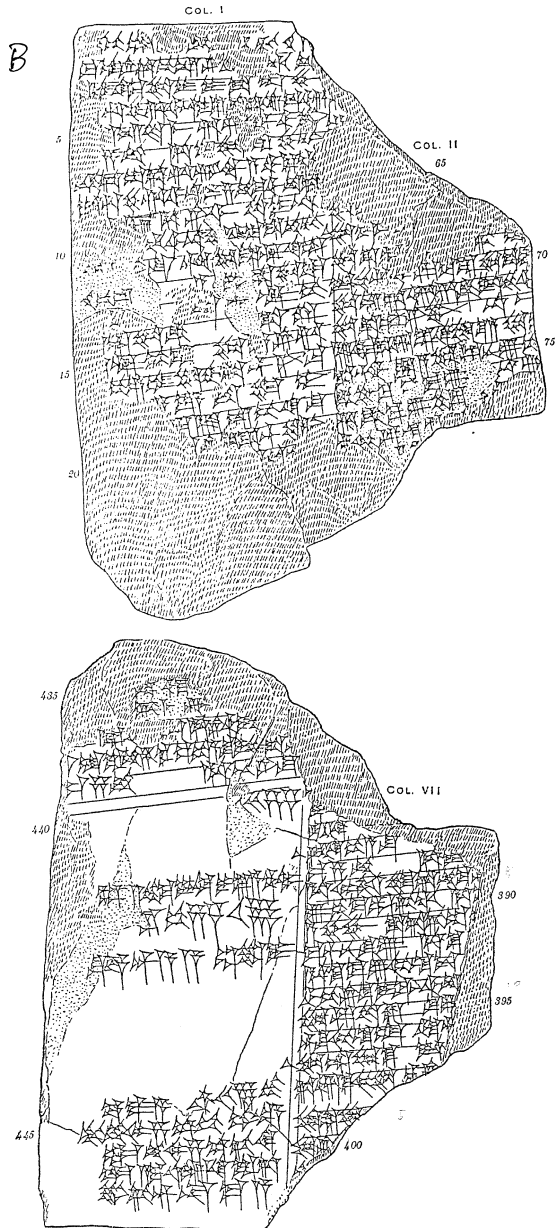
K 14697

2564

四

71





A HEBREW DELUGE STORY IN CUNEIFORM (REVERSE)

